

【-】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。(①～⑩は段落番号です。)

① 農業とは何か、と問われたら「命を引き出す人の営み」と答えることにしています。このことを私に気づかせてくれたのは、韓国で自然農業運動を実行している趙さんでした。趙さんとはじめて会ったのは一九八〇年代終わりで、かれは日本の自然農法と交流しながら、自身の農業論を完成させようと悪戦苦闘している最中でした。なぜ自然農業なのか、とたずねると、「作物や家畜を育てる中心は自然であって、人はその手伝いをしているにすぎないからだ」という答えが返ってきました。それでは農業技術の役割は何か、と重ねて質問すると、趙さんの答えは「まず自然の働きをじやまないこと、そして作物や家畜の力を自然の営みにそって最大限に引き出すこと」というものでした。

② 農業の生産力、つまり農業を支える力とは何かを考えると、この視点に立ち返ることが今何より大事だと思っています。これまで、私たちは農業を支える力とは化学肥料や農薬、農業機械であると思います。その力の上に高効率・高収量をめざし生産性を上げることが農業の進歩だと考えていました。それに対して趙さんは、農業を支えているのは自然なのだと言いつつ切ったのです。

③ では、その場合の自然とは具体的に何を指しているのでしょうか。それは土です。土に働きかけることから、農業という営みが始まります。人は土から地力という自然の力を得ます。作物を育てるということは、土から地力をうばい取ることです。しかしそれは再生産可能な力であり、うまく取りあつかい、生かして使えば、地力は永続することができただけでなく、それを増大させることもできます。では、地力という自然の力をもつ土とはどういうものなのでしょう。農家の人は、「土が肥えている」とか「土がやせていて大変だ」という言い方をよくします。「肥えた土」とか「やせた土」というのはどういふ土なのでしょう。雑木林の中の土はだれも耕さないのにふかふかとしていて、その上を歩くと、なんとなくいい気持ちになるという経験をした人がいるでしょう。どうしてなのでしょう。

④ それは「土が生きている」からです。土の中には膨大な数と種類の生物が住んでいて、食ったり食われたり糞をしたりといった生命活動を行ない、土を作り、変化させているのです。土とは、そうした生命活動を内にくむ小宇宙とみることが出来ます。その小宇宙の主人公は微生物です。ひと言で微生物といっても、種類も大きさもさまざまです。土の種類や性質、状態にもよりますが、一グラム、つまり小さじ一杯ほどの土の中に住んでいる微生物は「数え切れない」と言うしかありません。専門の本でも表現はさまざまで、「数千万から数億」「数十億」「地球の人口と同じくらい」「無数」といったぐあいです。森の中や田んぼ、畑で土の上に降りかかる落ち葉、枯れ枝、木の根っこ、農作物の葉や茎、動物の遺体や糞などは、これら微生物によって分解され、植物が吸収できる形になって、ふたたび植物体内に取りこまれるのです。

⑤ 微生物がたくさんいると、それを餌とする小動物が集まってきます。土の中の小動物たちは動植物の遺体をくだき、食べ、土と混ぜ合わせる役割を果たします。この小動物の働きは、微生物の分解活動を助けますが、同時に土をかき混ぜたり、糞を出すことによって、やわらかくふかふかした土を作り出します。

⑥ その土のふかふかを作り出しているのが団粒です。土は小さな粒子によって形成されています。その粒子が集まったものが団粒です。そこには小さなすき間がたくさんあり、微生物のすみかになると同時に、水や酸素をしつかりとつかまえます。団粒の数が多いほど、微生物も豊富で、保水力があり空気もいつぱいまった豊かな土ということになります。

⑦ また、微生物の分解活動でできたものと、雨や風によって岩石が細かくくだけたものとが合わさって、鉄分やカルシウムなど動物や植物の生育に欠かせないミネラルが土の中に供給されます。

⑧ このように見てくると、「肥えた土」とはどういう土なのかがわかってきます。いろいろな面で多様性に富んだ土ということです。これが農業を支える生産力の基礎をなす自然の力、地力なのです。

⑨ 日本の農地で土の力がおとろえていると言われ始めたのは一九七〇年代後半ごろからでした。取材で農家を訪ねると、土が固くなったとか、ミズが以前のように見られなくなったという話題がよく出るようになりました。化学肥料をいくら投入しても、作物の収量が思うようにのびなくなりました。同じころ、各地で農作物の病気が多発するようになりました。例えばキャベツやハクサイの産地では、根にこぶができて、根の機能が弱り、養分を吸収できなくなつて生育がさまたげられるという現象になやまされました。土の検査をすると、ミネラルが不足している農地が増えていることがわかりました。ミネラルは、量はわずかでいいのですが、植物の健康バランスをとるために欠かせない物質です。

⑩ こうした事態が進行した背景には、一九六〇年代以降の日本の経済成長という現実がありました。経済の成長に合わせて農業も生産性を上げていこうとしてとられた機械化や、化学肥料や農薬をたくさん使うやり方などが、農業を支える大切な土をこわしてしまつたという結果を招いたのです。農業は土の中に生息している微生物や小動物を無差別に殺します。すると、微生物の数も種類も少なくなり、バランスがくずれてしまいます。微生物のバランスが保たれているあいだは、おたがい助け合ったり食べ合ったりして、微生物が特定のものにかたよつたりするということはないのですが、そのバランスがくずれてしまい、ある特定の微生物が異常発生するという事態が起こつたのです。しかも、農業生産の効率を上げるため、いろいろな作物を作ることをやめ、単一の作物を毎年続けて作るという農業経営上の変化も同時に進みました。これを連作といいます。同じ作物を作り続けることで、土のバランスがいつそくずれてしまいます。

⑪ 地球上の自然環境は、たがいにつながり合いながら複雑な構造をなし、生物が安心して生きていけるよう調整しコントロールしています。多様な生物もこの自然環境から生み出され、そしてその存在がこのつながりを支えています。地球上の生物の一員としての人間も、このつながりの中でしか生きられません。しかし今、人間のさまざまな活動がこのつながりをくわす、農業もまたその活動の一部分として地球の環境破壊に一役買っています。その結果袋小路におちいつている農業を再生させる道は、もう一度、農業を支えている根源的な力にまでさかのぼって、そこから組み立て直していくしかない私は考えています。

(大野和興「日本の農業を考える」)

- 問一 — 1 「命を引き出す人の営み」とありますが、その「命」とは、趙さんの言葉では何と表現されていますか。
- 問二 — 2 「その場合」とはどういう場合ですか。
- 問三 — 3 「このように見ると」とありますが、どの段落から始まる内容を指していますか。段落番号で答えなさい。
- 問四 — 4 「いろいろな面で多様性に富んだ土」とありますが、具体的にはどのような土ですか。三点にまとめて答えなさい。
- 問五 — 5 「日本の農地で土の力がおとろえている」とありますが、どうしてそのような土になったのですか。
- 問六 — 6 「一役買っています」、—— 7 「袋小路におちいっている」とありますが、(1)「一役買う」(2)「袋小路におちいる」の意味として、
もつとも適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。
- | | | | | |
|----------------|-----------|------------|---------|----------|
| (1) 「一役買う」 | ア 先回りをする | イ 手助けをする | ウ 出費をする | エ 上乗せをする |
| (2) 「袋小路におちいる」 | ア あともどりする | イ 落とし穴に落ちる | ウ 行きづまる | エ わなにかかる |

【二】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

著作権上の都合により文章の掲載を省略しました

著作権上の都合により文章の掲載を省略しました

問一 — 1 「けれど階段をあげる気力がなかった。」とありますが、それはなぜですか。もっとも適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 二階の寝室にあがっても、パパがいるように思えなかったから。

イ 家の中がしんとしずまりかえっていて、何だか気味が悪かったから。

ウ 久しぶりに長い道のりを歩いてきたので、疲れてしまったから。

エ 階段をあがってパパがいるかどうか調べるのはめんどろだったから。

問二 — 2 「その自分自身のことばにジェシカはぶるつとふるえた。」とありますが、なぜふるえたのですか。

【三】

次のカタカナの部分に漢字に直しなさい。

問三

—— 3 「あの人たちが平気でいる」とはどういうことですか。もつとも適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア パパが死んだはずはないのに、勝手に死んだことにしてしまっている。

イ パパが死んだのに、そのことに心を乱されて悲しんでいる様子が無い。

ウ パパが死んだことを悲しんでいるけれど、悲しくないようなふりをしている。

エ パパが死んだというのに、それをみとめようとしないで普段通りでいる。

問四

—— 4 「おれは人をなぐさめるのが、いちばん得意なんだ。」とありますが、どんなことからそれがわかりますか。

問五

—— 5 「ジェシカはためらった。」とありますが、何をためらったのですか。

問六

—— 6 「ジェシカはパパが言いそうなやさしい言い方で言った。」とありますが、「やさしい言い方」になったのはなぜですか。

1 カンセイはがきを買う。

2 熱戦にコウフンする。

3 ジョヤのかねの音が聞こえる。

4 機械をソウサする。

5 未来の明るいテンボウを開く。

6 ハンガを出品する。

7 ハイユウを夢見る。

8 作品をヒヒョウする。

9 物資をユソウする。

10 ヨウリヨウよく仕事をする。

11 的をイる。

12 紙をタバねる。

13 会議の最後に決をトる。

14 人員をヘらす。

15 広場に人がムラがる。